A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術　共通)

別添	なし

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分

複数応募の状況(該当するものを選択してください。)　※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	有	応募総企画数	3企画

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	いっぱんしゃだんほうじんがしょうえん 一般社団法人瓦照苑		団体ウェブサイトURL https://kanshou.com
代表者職・氏名	代表理事・谷口拓司		
制作団体所在地	〒 662-0063	最寄り駅(バス停)	阪急神戸本線　夙川駅
	兵庫県西宮市相生町10-11		
電話番号	0798-55-7362		
ふりがな 公演団体名	いっぱんしゃだんほうじんがしょうえん 一般社団法人瓦照苑		団体ウェブサイトURL https://kanshou.com
代表者職・氏名	代表理事・谷口拓司		
公演団体所在地	〒 662-0063	最寄り駅(バス停)	阪急神戸本線　夙川駅
	兵庫県西宮市相生町10-11		
制作団体　設立年月	2021年4月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表理事　谷口拓司 他　理事5名、監事1名	実演家5名、他2名 【加入条件】伝統芸能の振興および普及を図り、文化芸術の発展、寄与のために行う当法人の事業に賛同する個人。	
事務体制 事務(制作)専任担当者の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	松田法枝
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	田中幸子
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	terasu@kanshou.com		

<table>
<tr><td>制作団体沿革・
主な受賞歴</td><td colspan="3">大正9年　初代上田隆一が上田観正会発足。二代目上田照也と共に兵庫県下における能楽堂・音楽堂を多数設立（戦災等により、現存は上田観正会能楽堂のみ）
平成7年　上田照也の次男、上田拓司による主催公演「照の会」がスタート（以降、京阪神の能楽堂 にて毎年開催）
平成11年　新たな能楽堂の経営事業として、夙川能舞台瓦照苑を開設
平成16年　夙川能舞台瓦照苑の運営および「照の会」を含む公演事業、教授事業の実施団体として有限会社瓦照苑を設立。同年より「能楽子ども教室」を開始。
令和2年　文化庁芸術祭　優秀賞を瓦照苑として団体受賞
（照の会　ちかの会　大阪公演における能「蝉丸　替之型　盲目之舞」の成果）
令和3年　より広域的な活動をするために、実演家（能楽師）が中心となり、一般社団法人瓦照苑設立。 同年より、有限会社瓦照苑の事業を一般社団法人瓦照苑へ移行開始。

主催公演「照の会」を30年間毎年開催、のべ14000人の観客に公演する他、神社仏閣や旅館での薪能（野外公演）から兵庫県立芸術文化センター主催のホール能まで、受託公演多数。
また、設立当初より続く「能楽子ども教室」は20年を迎え、西宮市による学校公演事業「アウトリーチ事業」に採択される（令和3年～）等、学校等教育機関での公演・ワークショップも毎年実施。平成30年度・令和4年度　文化芸術による子供の育成事業―巡回公演事業―実施。</td></tr>
<tr><td>学校等における
公演実績</td><td colspan="3">学校公演実績（（一社）瓦照苑として）
令和3年度　半能「安達原」　兵庫県内4公演（西宮市アウトリーチ事業）
令和4年度　半能「安達原」　兵庫県内2公演（西宮市アウトリーチ事業）
令和5年度　半能「安達原」　兵庫県内2公演（西宮市アウトリーチ事業）
ワークショップ　山口県周南市内2公演（自主企画）
兵庫県内2公演（自主企画）
令和6年度　ワークショップ　兵庫県内8公演（自主企画）
半能「安達原」　兵庫県内3公演（西宮市アウトリーチ事業）実施予定

他、年に2回、京阪神の能舞台で行う自主公演「照の会」では、学生や学校関係者に向け、安価な学生特別鑑賞席を設ける等、若い世代に本物の舞台を鑑賞する機会を拡げる取り組みを行っている。</td></tr>
<tr><td>特別支援学校等における公演実績</td><td colspan="3">なし</td></tr>
<tr><td rowspan="3">参考資料の有無</td><td>申請する演目のWEB公開資料</td><td colspan="2">有</td></tr>
<tr><td>※公開資料有の場合URL</td><td colspan="2">https://youtu.be/ij3iEXnrz-A</td></tr>
<tr><td rowspan="2">※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</td><td>ID:</td><td>無し</td></tr>
<tr><td>PW:</td><td>無し</td></tr>
</table>

別添	あり

公演・ワークショップの内容　　【公演団体名　一般社団法人瓦照苑　】

対象				
	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○

企画名	～お面で変身！？～　能楽鑑賞　狂言「仏師」・半能「大会(だいえ)」
企画のねらい	鑑賞体験の乏しい、または初めての児童・生徒にもわかりやすいような普遍的なテーマを扱った2曲を上演。 同じ動作でありながら(仏の面をかけて化ける、騙す)、明確に表現や所作の違う2曲を同時に鑑賞し比べることで、日本文化の幅広さを実感します。
演目概要・演目選択理由	**狂言「仏師」あらすじ** 都に出かけた男が「仏像を買いたい」と大声で言い回ると、自分は仏師だというすっぱ(嘘つき)が近寄ってきました。男は大喜びし、早速仏像を注文します。早くも次の日、完成した仏像は、それは素晴らしい出来栄えでしたが、実はすっぱが変装したもので…。 **半能「大会」あらすじ** お坊様に恩返しがしたい天狗は、お坊様の願いを聞き(省略箇所)、お釈迦様に化けて説法を始めます。すると、「正直なお坊様をもてあそぶとは何事か」と怒った神様「帝釈天」が駆けつけて、天狗をこらしめます。怒られるのが嫌な天狗は暫く争いますが、最後は平身低頭謝り、自分の住まいへ逃げ帰っていくのでした。 ・両演目に共通する『人を騙したから怒られる、という普遍的な道徳観』や『仏の仮面をかけて変身する、という「目」で見てわかる演出』が児童・生徒の鑑賞に適しています。 ・一方で、内容や演出に共通点がありつつ、所作や表現の違いで雰囲気が180度変わる、能の「シリアス」と狂言の「ユーモア」を体感できる演目です。
児童・生徒の参加又は体験の形態	①狂言「仏師」で、すっぱが「仏像」に変装する時のお多福の面をみんなで作ります。そしてその面をつけて、ポーズを児童・生徒に考えてもらい(事前ワークショップ)、本公演にて代表者2～3名に発表してもらいます。 ②児童・生徒の発表した仏像のポーズを実際の狂言公演に取り入れ、上演します。 ②囃子(楽器の演奏)を手元で真似るスタイル「エア鼓」で疑似的に体験し、能楽師と一緒に演奏してもらいます ③薪能等でよく行われている能開演の儀「能奉行舞台改め」を共演します。代表者1名(教師または児童・生徒)が和装して能奉行に扮し舞台に上がり、能奉行の掛け声を合図に囃子の演奏が始まり、全児童・生徒が祝言謡「老松」を演者と共に発表します。

児童・生徒の参加可能人数			
	本公演	参加・体験人数目安	～500名(舞台上共演は3～4名)
		鑑賞人数目安	～500名

本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	※スクリーンに解説やイラストを映しながら同時進行します **第1部　能楽解説と狂言「仏師」鑑賞(40分)** ◆能の音楽　～五人囃子と一緒に演奏しよう～(10分) ◆二つ合わせて「能楽」～能と狂言を見比べ～(10分) ◆狂言「仏師」のお話と体験・鑑賞(20分) ―間休憩(10分程度)― **第2部　半能「大会」鑑賞(50分)** ◆能開演の儀「能奉行舞台改め」　～みんなで謡おう「老松」～　(10分) ◆スクリーンで紙芝居！「大会」(10分) ◆半能「大会」鑑賞(20分) ◆質問コーナーと終演のごあいさつ(10分) 【別添①本公演演目詳細参照】 作者:不詳　上演形式:省略版 公演時間　100　分

出演者	シテ方　上田拓司★、上田貴弘★、笠田昭雄★、上田大介★、藤谷音彌★、下川宜長★、山田義高★、 上田宜照、上田顕崇、笠田祐樹　等（上記他の中より、シテ1名、ツレ1名、後見・地謡6名） ワキ方　江崎欽次朗★　等（左記他の中より、ワキ1名） 狂言方　善竹忠亮　善竹忠重★　牟田素之　等（左記他の中より、狂言3名） 囃子方　野口亮★、古田知英★、大村滋二★、中田弘美★　等（左記他の中より、笛1名、小鼓1名、大鼓1名、太鼓1名） ※★印は、重要無形文化財保持者（総合認定） ※第一線で活躍する重要無形文化財総合指定保持者の能楽師を主軸として、能楽協会所属能楽師（＝玄人）によって構成します。 【別添②メンバー表参照】
演目の芸術上の中核となる者（メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等）の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度／名	上田拓司：観世流シテ方準職分。重要無形文化財総合指定保持者。能楽協会神戸支部長。故・上田照也、大槻文蔵に師事。文化庁芸術祭　新人賞（平成20年）、文化庁芸術祭　優秀賞（平成24年）、兵庫県功労者表彰（令和元年）、文化庁芸術祭　優秀賞受賞（令和2年　瓦照苑にて団体受賞）等、受賞・表彰多数。 江崎欽次朗：福王流ワキ方。重要無形文化財綜合指定保持者。能楽協会神戸支部所属。元禄年間より続く姫路藩お抱え能役者・江崎家の現当主。十一世江崎金治郎（現：江崎正左衛門）に師事。平成27年『十二世江崎欽次朗』襲名。兵庫県芸術奨励賞（平成30年度）、姫路市芸術文化賞（令和元年度）受賞。 善竹忠亮：大蔵流狂言方。祖父・初世善竹忠一郎および父・善竹忠重に師事。狂言の現代性を追求する「花deN工房 禅」立ち上げ（平成29年）。論文「狂言師善竹彌五郎の芸と生―近代狂言におけるアドの太夫として―」にて立命館大学大学院より博士（学術）の学位授与（平成30年）。神戸市文化奨励賞受賞（令和2年）。

本公演 従事予定者数 （1公演あたり） ※ドライバー等訪問する業者人数含む	出演者：	16	名	**運搬**	積載量： 1 t 車　長： 4.7 m 台　数： 1 台
	スタッフ：	3	名		
	合　計：	19	名		

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	10:00	10:00～12:30	13:00～14:40	10	15:00～17:00	17時00分
	※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。					

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月
	10日	10日	15日	10日
	10月	11月	12月	1月
	10日	10日	10日	15日
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。		計	90日

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

舞台6.9m×6.2m・橋掛り3m×2m
装束部屋（装束付けをする舞台袖の部屋）3m×3m
多少のサイズ変更は問題ありません。

※採択決定後、図面等の提出をお願

舞台設営例

著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否		該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合	権利者名		許諾確認状況	

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし

【公演団体名　一般社団法人瓦照苑　】

ワークショップの ねらい	◆ワークショップでの解説や体験が、本公演の際に鑑賞・共演参加のキーポイントとなります。 児童・生徒が能楽に興味を持ち、本公演を期待し、狂言の体験の練習をしたり、共演の為の謡を歌う等、自発的な学習・練習をするようになるのが目的です。 ◆シリアスな能とコミカルな狂言の違いを伝えるため、能と狂言を並べて色々な表現を鑑賞し、体験することで、二つが全く違う雰囲気のものであることを実感してもらい、能楽の表現の幅広さへの関心につなげます。 ◆知らないと思っていた能楽が、お祭りのお面やアニメなどに登場する鬼の能面「般若」や女性の能面「小面」など、能面によって身近な存在であることに気づいてもらいます。 ◆児童・生徒に能面体験をしてもらうことで能面の視界の狭さを知ってもらうことはもちろん、2重にかけた能面を外す場面を見せることで、「仏様に化けた天狗」という内容を〝目で見て〟理解してもらいます。 さらに能面に興味を持った児童・生徒には、ふれあいタイム（間休憩）で実際に能面を掛けられるようにすることで実体験を得てもらいます。 ◆本公演で共演する「老松」の内容を、謡体験を通して理解し、共演に参加する意味を知ってもらいます。		
児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	体育館または会場の入場人数まで （100名程度がベスト）
	「たのしくまなぼ！能・狂言」 【第一部：能パート】 ①挨拶と能の説明（10分） 始めに能のお稽古として全員で正座にて挨拶をします。その後、能面の鑑賞から興味を引き、能の歴史、成り立ちを要点のみに絞ってわかりやすく説明し、以降の体験につなげます。 ②能の動きって？～身体の揺れない動き方（15分） 仕舞「高砂」を鑑賞し、その動き方の特徴を子ども達に質問して確認します。 そこから能が武士の影響を受けていることを説明し、隙を見せない動き方、「カマエ」「ハコビ」（能の基本の歩き方）等を体験します。 ③謡体験　～共演のお稽古～（15分） 能の基本である呼吸法や発声法等から伝え、本公演共演のための謡「老松」の稽古をします。当日の「能奉行舞台改め」にて共演することを伝えます。 ④能面体験～お釈迦様に大変身～（10分） 児童・生徒代表者に能「大会」の能面を2面かけてもらい、大仏の写真を掲示してお釈迦様とは何かを確認する、途中でお釈迦様の変身を解いて天狗の顔を出す等しながら、あらすじを解説します。		

ワークショップ 実施形態及び内容	【第二部：狂言パート】 ⑤能と狂言の違い（10分） 能がシリアスな内容、狂言がコミカルな内容という原則のもと 「笑い方」「雷を落とす」等、動き方や表現の仕方の違いを楽しく鑑賞してもらいます。 ⑥狂言体験～仏像に変身？（20分） 狂言「仏師」のあらすじを、実演を交えた寸劇形式にて解説した後、すっぱ（登場人物）が「仏像」に変装する時の狂言面『乙（お多福）』の紙の面を子ども達全員が各々作ります。そしてその面をつけて、本公演で実際に行われる「すっぱが仏像に変装する」やり取り（男側、すっぱ側の両方）をゲーム要素を入れて体験します。 その際、自ら考えた仏像のポーズを自由に表現してもらいます。 その中からいくつかのポーズを選択し、実際の公演に取り入れます。 ⑦終わりのごあいさつ（5分） 正座のご挨拶で終えます。 ※標準100分、途中に10分休憩有。 希望者は能面体験や能楽師とのフリートークを行えます（ふれあいタイム） ※「すり足」体験については鑑賞者100名以上の際は代表者30人程とさせていただきます。 ※配布する事前ワークショップ用テキストに、能楽解説や共演稽古用の動画のQRコードを載せ、学校・家庭での自主練習を行える環境を整えます。 ※シテ方、狂言方にて訪問します。
その他ワークショップに関する特記事項等	○用語等、解説の内容を参加児童・生徒の年齢等にあわせて調整致します。 ○特別支援学校／学級からの参加がある場合は、学校の先生方とご相談の上で参加児童／生徒の特徴を考慮し、本線から逸脱しない範囲で内容を変更致します。

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし

本事業への応募理由　【公演団体名　一般社団法人瓦照苑　】

本事業に対する取り組み姿勢、および効果的かつ円滑に実施するための工夫	**①本事業に対する取り組み姿勢** **●発想力と想像力を育て、文化芸術に親しむ心を育みます** 本事業の趣旨は、次の文化の担い手である児童・生徒達に優れた文化芸術を見せることによる、発想力・コミュニケーション能力の向上にあると考えます。伝統文化にして舞台芸術である能楽は、具体的な内容を安易に表す大道具（草木や建物、四季や時間を表すもの）や照明を用いないため、鑑賞する児童・生徒の想像力・発想力を養うことに適しています。 **●平易な解説（導入）で、本物の舞台芸術の敷居を低くします** 上演演目は、理解力・集中力を考慮し一部省略します。これはただ時間短縮を行うのではなく、児童・生徒たちの目線で鑑賞体験自体を面白いと感じられるようにし、「最初の舞台鑑賞体験」を窮屈なものにしないためです。一方で、省略により物語の筋を損なわないよう、プロジェクターによるイラストの同時上映を行い、また、現代の身近な状況に置き換えた例え話等で作り物（大道具）の意味を説明する等、内容の正しい理解を手助けします。 **●舞台と客席の意識共有体験で、協調性の高いコミュニケーション力を育てます** 舞台芸術、特に能楽は、客席との意識共有（静かにするべき時に静かにする、舞台上の動きや音楽から情報を読み取る、演者と同じ感情を共有する等）ができなければ成り立ちません。舞台上と客席の意識の一体化を経験することは、協調性の高い受動的なコミュニケーション能力を養い、芸術鑑賞能力を向上させる結果につながります。 **●本格的な能舞台を届けます** 能楽堂や専用設備付きホールがない地域では、上演が難しい古典芸能…。本事業は、そうした地域にもトップレベルの文化芸術を見せることを意義としており、これを戦後初の訪中公演（昭和31年）より使用してきた私共の移動式能楽敷舞台を用いて本格的な上演を行い、文化的な地域格差解消にも貢献します。 **●「心の教育」を大切にしています** 児童・生徒が文化芸術を鑑賞する機会というのは、青少年の教育において重要視される「道徳」な「情操教育」の一翼を担う内容であれば、なお良いと思われます。瓦照苑のモットーである能の社会的意義「心の教育」を実践し、より良い社会につながることを期待します。何より大事なのは、それらの効果を最大限に引き出すためには、初めて能楽を観る子どもたちにも公演への興味を持ってもらえる内容でなければならず、したがって、その公演は非常に楽しく面白い時間でなければならないと考えています。 私共は能楽を子どもたちに広めるというだけでなく、芸術・文化を理解する土台をもった教養と道徳心のある次世代の人間を育成する、そういった公演を提供すべく、本事業を申請致します。 **②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫** **●より近くで、鑑賞できる工夫をしています** WSや本公演時に司会が積極的に児童・生徒に質問を投げかけたり、舞台をあえて敷舞台形式にして距離を近くしたり、解説イラストをあらすじ説明だけでなく上演中も舞台進行に合わせて表示する等、鑑賞者が置いてけぼりにならず、舞台との距離が近くなる公演を心がけています。 **●学校の負担を減らします** 演者側のこと等は出来るだけ皆様の手を煩わせず、コミュニケーションを密に取り、実施校の負担が極力減るよう努力します。 **●わかりやすいプリントや動画を配布します** 共演部分を児童・生徒がスムーズに謡えるように、謡をひらがな書きしたプリントを配布し、それに稽古用動画のQRコード等（youtubeにて限定公開）を印刷しておくことで、学校・家での復習を行える環境を整えます（学校側がCD・DVDを希望する場合は、別途用意します）。また、事前／事後学習として、前述の方法で用意した能楽についての子ども向け学習動画を見られるようにして、彼らが自発的に学習できる環境も整えます。 **●事前にきちんと打ち合わせをします** ワークショップでのすり足には靴下が必要など、児童・生徒側に用意をお願いする物や、学校側に協力をお願いすべきところは、しっかりと連絡します。当日のタイムテーブル等を一覧にした公演の実施概要を事前にお送りし、学校も児童・生徒も安心して楽しく公演に参加できるよう努めます。 **●各校の実情にあわせた形で実施します** いずれも学校側と協議の上で、実情を把握し、希望を聞き、学校に沿う形で実施することを心がけます。

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.2	【公演団体名	一般社団法人瓦照苑	】

本公演演目詳細

別添①〈本公演演目詳細〉
※公演中、プロジェクターに解説や歌詞の字幕、上演内容のイラストを表示します。
※司会や紙芝居の読み手は、ラジオ出演などの経験等もある若手能楽師が務め、観客を能楽の世界に誘います。

第1部　能と狂言ってな～に？
◆能の音楽　～五人囃子と一緒に演奏しよう～
　オープニング演奏の後、能面やひな人形の五人囃子等、実は能楽の一部が身近にあることを知ってもらいます。
また楽器の紹介を交えつつ、舞台上の演者と共に、掛け声と手拍子（エア鼓）で音楽を作ります。
ひな人形の五人囃子が、目の前で自分達と一緒に動く、そんな体験をしてもらいます。

解説（例）

◆二つ合わせて「能楽」～能と狂言を見比べ～
能と狂言は何がどう違うのか等、実演を交えて解説します。
あまりの違いに笑い出す子ども達も多く居ます。

◆狂言「仏師」のお話と鑑賞
「仏師」の登場人物やあらすじをスクリーンで解説・復習します。
代表者2～3名に、児童・生徒が考案した仏像のポーズを発表してもらい、そのポーズを取り入れた狂言「仏師」を上演します。

狂言「仏師」

～休憩（10分程度）

第2部　半能「大会」鑑賞
◆能開演の儀「能奉行舞台改め」
～みんなで謡おう「老松」～
共演は囃子方も参加し、共に一つの舞台を作り上げます。

能開演の儀

◆紙芝居「大会」
紙芝居形式（プロジェクターを使用）で「大会」のあらすじを解説・復習します。
また公演に用いる作り物の「獅子の座」（お釈迦様の椅子）を舞台に配置して説明をする際、「校長先生のふりをする生徒のお話」という身近なシチュエーションに置き換え、あらすじを説明し、その後、半能「大会」を鑑賞します。

紙芝居「大会」

◆半能「大会」鑑賞
※プロジェクター投影によるイラスト付
能上演中は解説の際のイラストが場面に対応して表示され、鑑賞者の内容の理解を深めます

終演後は、質問コーナーを設け、子供たちの質問に出演の能楽師がその場で回答いたします。
最後は、装束をつけたままの演者全員が整列してメッセージを送り、児童・生徒との挨拶で終了します。

※分数は目安です。
また、内容は公演時間により一部短縮する事があります。

半能「大会」

参考映像：「能奉行舞台改め」お稽古用動画

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.2	【公演団体名	一般社団法人瓦照苑	】

メンバー表

別添②〈メンバー表〉

〇シテ方

上田　拓司：観世流シテ方準職分。重要無形文化財総合認定。能楽協会神戸支部長。
上田照也、大槻文蔵（人間国宝）に師事。
平成18年　上田兄弟会で神戸ブルーメール賞団体受賞。
平成20年　文化庁芸術祭　新人賞受賞。
平成24年　文化庁芸術祭　優秀賞受賞。
令和1年　兵庫県功労者表彰。
令和2年　文化庁芸術祭　優秀賞受賞（瓦照苑にて団体受賞）。
一般社団法人瓦照苑代表理事　有限会社瓦照苑代表

上田　貴弘：観世流シテ方職分。重要無形文化財総合認定。能楽協会神戸支部所属。
上田照也、二十六世観世宗家に師事。現上田家当主。
(株)上田観正会能楽堂代表取締役。

下川　宜長：観世流シテ方準職分。重要無形文化財総合認定。能楽協会神戸支部所属。

山田　義高：観世流シテ方準職分。重要無形文化財総合認定。能楽協会神戸支部所属。

笠田　昭雄：観世流シテ方準職分。重要無形文化財総合認定。能楽協会神戸支部所属。

上田　大介：観世流シテ方準職分。重要無形文化財総合認定。能楽協会神戸支部所属。

藤谷　音彌：観世流シテ方準職分。重要無形文化財総合認定。能楽協会神戸支部所属。

上田　宜照：観世流シテ方準職分。能楽協会神戸支部所属。

上田　顕崇：観世流シテ方準職分。能楽協会神戸支部所属。（一社）瓦照苑理事。

笠田　祐樹：観世流シテ方準職分。能楽協会神戸支部所属。

〇ワキ方

江崎欽次朗：福王流ワキ方。重要無形文化財総合認定。能楽協会神戸支部所属。
元禄年間より続く姫路藩お抱え能役者・江崎家の現当主。
十一世江崎金治郎（現：江崎正左衛門）に師事。
平成27年『十二世江崎欽次朗』襲名。
平成30年　兵庫県芸術奨励賞受賞。
令和元年　姫路市芸術文化賞受賞。
（一社）瓦照苑理事。

〇狂言方

善竹　忠亮：大蔵流狂言方。能楽協会神戸支部所属。
祖父・初世善竹忠一郎および父・善竹忠重に師事。
平成29年　狂言の現代性を追求する「花deN工房 禅」立ち上げ。
平成30年　立命館大学大学院より博士（学術）の学位授与
（論文「狂言師善竹彌五郎の芸と生―近代狂言におけるアドの太夫として―」にて）。
令和2年　神戸市文化奨励賞受賞（令和2年）。
（一社）瓦照苑理事。

善竹　忠重：大蔵流狂言方。重要無形文化財総合指定保持者。能楽協会神戸支部副支部長。
初世善竹忠一郎の次男、父に師事。、平成28年、兵庫県功労者表彰。

牟田　素之：大蔵流狂言方。能楽協会神戸支部所属。

〇囃子方

野口　　亮：森田流笛方。重要無形文化財総合認定。能楽協会大阪支部所属。

古田　知英：幸流小鼓方。重要無形文化財総合認定。能楽協会神戸支部所属。

大村　滋二：大倉流大鼓方。重要無形文化財総合認定。能楽協会神戸支部所属。
（一社）瓦照苑理事。

中田　弘美：金春流太鼓方。重要無形文化財総合認定。能楽協会大阪支部所属。

※上記メンバーに京阪神を中心に活躍する能楽師を加え、日程等を考慮して公演出演者を決定します。